

## 事務事業評価票

担当課	産業観光部	観光課	庶務管理係	事務事業No.	17133		
事務事業名	観光施設管理事業			会計	一般会計		
まちづくりのテーマ	第2 活力あふれる産業と地域の魅力を活かしたにぎわいのあるまち			款	7	項	1
施策目標	観光を主体に国内外からひとを呼び込む交流の促進						
施策項目	“welcome おおまち” 魅力ある観光地づくりの推進						
前期計画掲載頁	56~58	頁	個別計画	大田市観光振興計画、大田市東山周辺地域観光整備計画			13~
事業期間	平成	年	~	平成	年	根拠法令・要綱等	

事業の目的	観光施設の適正な維持管理のために、施設改修・更新を計画的に実施する。 大田市アミューズメントハウス及び大町温泉郷森林劇場については、指定管理者制度を導入して経費の節減を図ると共に、民間による創意工夫に基づいた利用者の拡大に努める。							
事業内容	観光施設及び温泉管の維持管理、新設、修繕等 指定管理：大田市アミューズメントハウス、大町温泉郷森林劇場 H28年度 登山道吊橋修繕工事、扇沢市営第一駐車場駐輪場設置工事、大田市アミューズメントハウス給水加圧ポンプ更新工事 ほか H29年度 扇沢市営第一駐車場車止め設置工事、大田市アミューズメントハウスプール棟大屋根及び玄関ポーチ屋根修繕工事ほか H30年度 大田市アミューズメントハウス温水ヒーター・熱交換器更新、扇沢市営第一駐車場修繕、JR信濃大町駅舎Wi-Fi整備工事ほか							
事業費	財源内訳	年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度			
		総事業費（決算額）	59,393,903 円	49,707,434 円	65,442,317 円			
		国庫支出金	円	円	円			
		県支出金	4,000,000 円	円	円			
		起債	円	円	円			
		その他財源	円	円	円			
一般財源	55,393,903 円	49,707,434 円	65,442,317 円					
活動指標	指標名	単位	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	前年度（H30） 目標値	達成率 （%）	次年度（R元） 目標値
	① 管理施設	箇所	7	7	7	7	100.0%	8
	② 公衆トイレ	箇所	17	17	17	17	100.0%	18
	③							
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成28年度	平成29年度	平成30年度	前年度（H30）	達成率	次年度（R元）
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値
	① 修繕箇所	箇所	10	9	12	10	120.0%	8
	② 新設工事	箇所	1	1	1	1	100.0%	2
	③							
2. 数値で表せない効果 （指標）								

## 【事業の評価と今後の方向性】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計		
	評価	事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化				継続	15
	点数	高い	高い	普通	一部重複	普通	適正である					

## 【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）	大田市公共施設等総合管理計画との整合性を図った個別施設計画の作成による整備・修繕を実施するに当たり、当課観光施設（看板・公衆トイレ等）がデータ化されていないのが課題である。また、現在、公衆トイレの維持管理については、観光課、生活環境課で二課で管理している状況である。過去の調整会議経過もあるが、事業効率を図るため一元管理が望ましい。今後、大田市アミューズメントハウスの温水配管について、令和元年度の点検及び年次計画作成により順次改修を実施していきたい。
改善の方法等（上記の課題をふまえて令和元年度以降に実施する具体的な改善の内容）	緊急性や有効性などの優先度を把握する中から、観光施設の計画的な改修を行い、財源については補助事業や有利な起債等の活用を努める。観光看板を中心とした看板台帳の整備の実施。また、大田市アミューズメントハウスの給水管については、計画的な改修が必要なため実施計画に反映した事業実施に努めていく。 また、指定管理者制度導入により、民間活力を利用しながら利用者からのニーズ把握にも努め、可能な範囲で要望を取り入れた施設整備・運営を図っていく。

事務事業評価票

様式第2号

担当課	産業観光部	観光課	庶務管理係	事務事業No.	171134		
事務事業名	登山道改修補助事業			会計	一般会計		
まちづくりのテーマ	第2 活力あふれる産業と地域の魅力を活かしたにぎわいのあるまち			款	7	項	1
施策目標	観光を主体に国内外からひとを呼び込む交流の促進						
施策項目	“welcome おおまち” 魅力ある観光地づくりの推進						
前期計画掲載頁	56~58	頁	個別計画	大田市観光振興計画			13~
事業期間	平成	年	~	平成	年	根拠法令・要綱等	

**事業の目的**  
 山岳関係者と協議し登山道の重点整備箇所を選定し整備・改修を行う。  
 また、山小屋関係者と登山道等の維持管理について協議を行い、安全で良好な登山道の維持管理に努める。

**事業内容**  
 H28年度整備箇所 竹村新道周辺登山道、ブナ立尾根登山道、針ノ木岳登山道  
 H29年度整備箇所 ブナ立尾根登山道、伊藤新道、針ノ木岳登山道、船窪新道登山道  
 H30年度整備箇所 竹村新道周辺登山道、ブナ立尾根登山道、船窪新道登山道、伊藤新道

年度		平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費 財源内訳	総事業費（決算額）	3,467,998 円	1,631,330 円	2,487,761 円
	国庫支出金	円	円	円
	県支出金	円	円	円
	起債	円	円	円
	その他財源	円	円	円
一般財源		3,467,998 円	1,631,330 円	2,487,761 円

活動指標		平成28年度	平成29年度	平成30年度	前年度（H30）	達成率	次年度（R元）
指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値
① 登山道改修要望	箇所	3	3	4	3	133.3%	3
②							
③							

1. 数値で表せる指標		平成28年度	平成29年度	平成30年度	前年度（H30）	達成率	次年度（R元）
指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値
① 登山道整備箇所	箇所	3	4	4	3	133.3%	3
② 登山者数	人	73,900	78,000	75,800	80,000	94.8%	77,000
③							
2. 数値で表せない効果 (指標)							

【事業の評価と今後の方向性】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
		評価	高い	低い	普通	重複なし	普通			
点数	3	1	2	3	2	3		18		

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）

現在は山小屋関係者と連携して登山道改修の支援を行っているが、今後、国・県の補助事業等を活用した登山道整備が課題である。  
 H30年7月の集中豪雨で高瀬渓谷内の晴嵐荘手前吊橋（登山道の一部であるが民間により設置された）が崩落し、噴湯丘へアクセスする護岸が大規模に破損している状況、現在、東京電力ホールディングスによる修繕中であるが計画が遅れている状況。また、晴嵐荘手前吊橋については早急な復旧が難しい状況。

改善の方法等（上記の課題をふまえて令和元年度以降に実施する具体的な改善の内容）

平成28年度からの「山の日」の制定や以前制定された「信州山の日」などを契機とし、登山に訪れる観光客が増えることを考慮するとともに、客層も老若男女と幅広い方々が訪れるため、登山者の安全を考慮した整備が望まれる。また、平成27年度から補助金の交付要件等を見直し、より数多くの登山道整備を対象とできるようにした。また県や国の補助金等の活用を図り、より充実した山岳環境の整備を推進する。  
 H30年7月の集中豪雨で被害を受けた高瀬渓谷については、東日本大震災での原子力発電事故補償による社会的制裁事情が重くのしかかる状況ではあるが、過去の水力発電開発経過からの補償観点もあるので、東京電力ホールディングス様との協議が必要。また、大規模水害による高瀬川流路も大きく変化し、今後の登山道の維持と登山者の安全確保のため直轄整備について、環境省、農林水産省（林野庁）への要望活動を継続していく。

事務事業評価票

様式第2号

担当課	産業観光部	観光課	観光振興係	事務事業No.	17141				
事務事業名	宣伝誘客イベント事業			会計	一般会計				
まちづくりのテーマ	第2 活力あふれる産業と地域の魅力を活かしたにぎわいのあるまち			款	7	項	1	目	4
施策目標	観光を主体に国内外からひとを呼び込む交流の促進								
施策項目	“welcome おおまち” 魅力ある観光地づくりの推進								
前期計画登載頁	56~58	頁	個別計画	大田市観光振興計画、大田市東山周辺地域観光整備計画				13~	頁
事業期間	平成	年	~	平成	年	根拠法令・要綱等			

事業の目的	誘客キャンペーンやホームページ等からの情報発信を通じて観光誘客を促進するとともに、観光案内やイベント開催支援によって魅力ある観光地づくりを進め、当市の主要産業の一つである観光振興を図る。								
事業内容	他団体と連携した誘客キャンペーン参加、観光協会を通じた観光案内やホームページ等からの情報発信、アルペンルート佐々成政武者行列、塩の道祭り、針ノ木岳慎太郎祭、木崎湖花火大会等のイベント開催支援。								
事業費	年度		平成28年度	平成29年度	平成30年度				
	総事業費（決算額）		56,178,173 円	56,822,869 円	62,278,766 円				
	財源内訳	国庫支出金		円	円	円			
		県支出金		円	757,500 円	976,000 円			
		起債		円	円	円			
		その他財源		3,616,420 円	1,595,120 円	34,271,980 円			
一般財源		52,561,753 円	54,470,249 円	27,030,786 円					
活動指標	指標名		単位	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	前年度（H30） 目標値	達成率 （%）	次年度（R元） 目標値
	①	市観光協会案内（窓口・電話）	件	26,012	24,219	27,292	25,000	109.2%	27,500
	②	誘客宣伝活動	人工	46	64	68	60	113.3%	70
	③								
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成28年度	平成29年度	平成30年度	前年度（H30）	達成率	次年度（R元）	
	指標名		単位	実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値
	①	イベント参加者数	人	1,485	1,405	1,518	1,700	89.3%	1,600
	②	市観光協会HP訪問者（アクセス）数	件	969,496	931,849	855,902	950,000	90.1%	900,000
	③	観光入込客数	百人	27,248	27,730	28,379	28,500	99.6%	28,500
	2. 数値で表せない効果 （指標）								

【事業の評価と今後の方向性】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計		
	評価	事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化				継続	15 / 18
	点数	高い	普通	高い	一部重複	普通	適正である					

【具体的な課題と改善】

<p><b>事業に対する課題について（目的に対する現状など）</b></p> <p>当事業で実施する宣伝誘客事業は、不特定多数に対するパンフ配布を含む情報発信（キャンペーン等）やイベント開催となっているが、現在の情報収集の主流はWEB、SNSに移行しているため、ウェイトの見直しが必要。また、他の類似組織との重複事業がある。2,500万円を負担する大田市観光協会は県補助金を活用するもマンパワーが不足しており、効果的な事業展開が不足している。</p> <p>顧客データ分析やマーケティングが不足しているため、ターゲットが漠然としており、事業成果を効果的に検証する手法がない。</p>
<p><b>改善の方法等（上記の課題をふまえて令和元年度以降に実施する具体的な改善の内容）</b></p> <p>顧客データ取得、データ解析、マーケティング手法、担当組織を立ち上げるとともに、観光団体の統廃合や組織改編による効率的な情報発信、誘客宣伝、観光ガイド要請や体験メニュー整備等受け入れ態勢を整備する。</p> <p>具体的には大田市観光協会、大町温泉郷観光協会、木崎湖温泉観光協会の統合、市プロモーション委員会、インバウンド推進協議会等の行政が事務局を担当する組織の位置づけなどを明確にしていく。</p>

事務事業評価票

担当課	産業観光部	観光課	観光振興係	事務事業No.	17142				
事務事業名	観光振興事業			会計	一般会計				
まちづくりのテーマ	第2 活力あふれる産業と地域の魅力を活かしたにぎわいのあるまち			款	7	項	1	目	4
施策目標	観光を主体に国内外からひとを呼び込む交流の促進								
施策項目	“welcome おおまち” 魅力ある観光地づくりの推進								
前期計画掲載頁	56~58	頁	個別計画	大田市観光振興計画、大田市東山周辺地域観光整備計画			13~	頁	
事業期間	平成	年	~	平成	年	根拠法令・要綱等			

**事業の目的**  
 本市の魅力ある観光資源の情報を積極的に国内外に発信し、滞在型周遊型の観光誘客に取り組むことで観光入込数を増やし観光消費額増加につなげる。  
 また、観光消費額の増大による地域振興と活性化を目指し、観光客の受け入れ体制を強化するとともに、観光案内の充実や、広域観光拠点をつなぐ二次交通の整備など、広域観光の推進に取り組む。

**事業内容**  
 観光案内や宣伝等の充実のための市観光協会への支援、観光団体と連携した観光キャンペーンの展開、二次交通の整備による受入体制の強化、パンフレット等の印刷物やテレビ・ラジオなどのマルチメディアを通じた観光情報の発信、周辺自治体等と連携した広域観光の推進を実施。またインバウンド事業は、東アジア（台湾、韓国、香港）を中心にASEANに誘客活動を行い、市内での文化体験ができるカルチャープログラム事業等を展開する。

事業費	財源内訳	年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
		総事業費（決算額）	54,857,378 円	53,484,256 円	51,240,060 円
		国庫支出金	円	2,498,000 円	2,062,800 円
		県支出金	円	円	円
		起債	円	円	円
		その他財源	円	1,626,561 円	円
一般財源	54,857,378 円	49,359,695 円	49,177,260 円		

活動指標	指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	前年度（H30）	達成率	次年度（R元）
	① 市観光協会HP訪問者（アクセス）数	件	969,496	931,849	855,902	950,000	90.1%	900,000
	② 市観光協会案内（窓口・電話）	件	26,012	24,219	27,292	25,000	109.2%	27,500
	③							

成果指標	1. 数値で表せる指標		平成28年度	平成29年度	平成30年度	前年度（H30）	達成率	次年度（R元）
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値
	① 観光入込数	百人	27,248	27,730	28,379	28,500	99.6%	28,500
	② 黒部ダム外国人観光客数	百人	2,438	2,706	2,733	2,800	97.6%	2,800
	③ 観光消費額	億円	117	117	122	123	99.2%	123
	2. 数値で表せない効果 (指標)							

【事業の評価と今後の方向性】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計		
	評価	事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化				拡大	15 / 18
	点数	高い	普通	高い	一部重複	高い	改善の余地あり					

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）

市内及び広域連携の二次交通の整備・拡大が課題である。市域では周遊バス「信濃大町ぐるりん号」の更なる誘客に向けた事業の展開が必要。広域観光では日本アルプス観光連盟、北アルプス日本海広域観光連携会議、信州まつもと空港地元利用促進協議会等との連携進めているが、「信州まつもとと空港」から、また北陸新幹線「糸魚川駅」からの利便性の向上が課題である。

改善の方法等（上記の課題をふまえて令和元年度以降に実施する具体的な改善の内容）

観光は、当市の基幹産業の一つであり他産業の振興や雇用など地域経済への波及効果は大きいため、継続して観光誘客宣伝に取り組む必要がある。  
 また、協議会等（任意観光団体）が主体となって観光イベントや誘客キャンペーン、情報発信などを行っている。大田市観光協会について、今後も引き続き連携するとともに、組織全体の見直しや体制強化を図り、協会のあり方や役割分担を検討する必要がある。インバウンド対策については、入込は依然として好調であるが「室堂・雪の大谷」期間外での誘客について、今後も、立山黒部貫光（株）や関西電力と連携し、台湾を中心に、タイなどのASEAN諸国の更なる誘客に結び付ける。またスマホ利用者の急増により、HPをスマホ対応し市街地を中心とした「まちなか歩き」を展開する。市域の周遊バスでは新たなコースを設定し、2コース運行を実施した。